

チリ政府と協力、支援

アムダ調整員帰国報告

2月末に大地震が起きたチリで、乳幼児向けの健康診断などをしてきた国際医療NGO「AMDA(アムダ)」(本部・岡山市北区)

の森田佳奈子調整員が20日、記者会見を開いた。医療支援の基盤作りを担った森田さんは、「チリ政府や軍関係者らの協力を得られ、現地の人たちで(健診

などを)続けられる態勢を作れた」と成果を報告した。現地入りした津曲兼司医師、石岡未和、大和玲子両看護師も同席した。

支援は、被害が大きいチリ中部の漁村で3月15日、31日に実施し、チリ政府の地震対策緊急本部や軍関係者らから、情報収集や医師確保、警備などの面で協力

を得て、乳幼児と、その家族を対象に取り組んだ。体調の悪化が心配される2歳以下の100人の健診をしたことや、地震のショックで母乳が出なくなった母親に高栄養のミルクを配ったことなどを報告した。

また、昼夜の気温差が激しい冬を迎えることや、津波被害による水の汚染が懸念されていることから、感染症予防のためにビデオ教材での手洗い指導も行った。